資料３

第２分科会（第２回）後に意見等記入票で寄せられた意見

１　活力ある教育活動を実践するための望ましい学校規模について

○　拠点校については、言葉ばかりが踊っていて、定義の議論がなされていない。
　早急に共通認識を図った上で検討に入る方が良い。普通科なのか、専門学科なのか、そのどちらもなのか。規模なのか、機能なのか。拠点校にはどんな支援をするのか、しないのか。拠点校で何をするのか。
　仮に導入するなら、青森県ならではの「拠点校」という新しい制度を作り上げなければならない。
　一方で、拠点校ではない高校に対するフォローも、セットで議論したい。

○　拠点校をどのように配置するかをはっきりさせないと議論が進まない部分があると思われる。

○　拠点校について、どういった取組の拠点となるのか、それによってこれまでと何が変わるのかといったことを明確にしたうえで検討すべき。

○　前回は、５クラスが望ましいと回答していたが、皆さんの意見を伺って、進路指導、特に進学コースを選択する上で、６クラスを維持できるようにした方が望ましいと思う。これが、拠点校としてポイントになるような気がする。もちろん部活動でも選択肢が増えて活力ある教育活動ができると思う。
　とはいえ、すべての学校を６クラスにするのは、町村地区では無理があるので、１クラスの人数を少なくして４クラスにし、生徒のレベルに合わせたきめ細かい教育活動をすべきであると思う。
　１クラス、２クラスでは選択肢が少ないので、限られたカリキュラムの中での授業しかできず、生徒にとって有益とは言えないと思う。
　グローバル化に対応した「オール青森」の人財育成を掲げるのであれば、多くの皆さんとコミュニケーションを取るためにも、多くの生徒がいた方が叱咤激励の中で成長していけると思う。

２　望ましい学校規模の学校を配置するための方策について

○　１学年に４～６学級必要だという前提に立てば、統廃合という手法は一つの選択肢になると考える。

　ただ、小規模校ならではの良さを生かした高校もあるわけで、一律で統廃合のみに頼るのも避けたい。

○　将来、人口が今の半分になることを見据えて、最終配置を基本に考えておくことが肝要である。そして、人口減少に合わせて徐々に統合・廃止をし、最終配置に出来るようにすることである。

　現在、高Ｐ連は６地区で運営しているが、人口に合わせて５地区・４地区・最終的に３地区にする。弘前市を中心とした津軽地区、青森市を中心に下北方面を加えた地区、そして八戸市を中心とした上北三八地区。

　進学校、実業校（工業・商業・農業、水産は八戸地区のみ）、定時制をそれぞれ配置する。

３　統廃合を行う場合に留意すべき事項について

○　高校が統廃合されたことが原因で、高校進学を断念する生徒が生じることは避けなければならない。スクールバスや寄宿舎制、財政的支援も含め、検討すればいい。県内一律である必要はなく、地域ごとに最適な手段を考えたい。

○　学校規模に関する基準は、やはり必要であり重要なポイントであると思う。

○　将来の展望や今後の子どもたちへの対応を納得するように説明し、理解を得られるように努めて欲しい。とにかく地域住民の皆様に懇切丁寧な対応をして欲しい。

　統合の場合は、伝統校・大規模校、小規模校にとらわれず、新しい校名で再スタートして欲しい。

○　統合の方法について、新たな学校にすることとした場合にあっても、多くの場合どちらかの既存の校舎を活用することになる。新たな校名にすることについては、これを基本としつつ地元の意見を聴きながらケースバイケースで判断していくことでもよいのではないか。

４　望ましい学校規模に満たない学校の方向性について

○　統廃合が進み学級減となったとき、通学困難地域の生徒をどのように支援するかが重要な課題。

○　最終的には、残念ながら統廃合の道しかないので、地域住民の皆様の理解を得られる説明をして欲しい。
　残された校舎は、地域のコミュニティー･ステーションとして活用する。例えば八戸市南郷区の山の楽校のように地域住民はもとより、他地区から来ていただくような企画・イベントをして欲しい。

○　望ましい学校規模に満たない学校について、他校に通学困難な地域にある学校まで一律に廃校とすることには慎重な議論が必要であると思うが、極端に生徒数が減少し、一定の教育水準が保てないような場合には廃校もやむを得ない。
　こうした場合は、スクールバス等の通学支援の検討が必要になるが、現状においても時間的、経済的に相当の負担を負って通学している生徒もいる中で、県が新たな支援を行うには公平性といった観点から、慎重な制度設計の検討が必要。

５　小規模校活性化のための方策について

○　基本は、最低４クラスであるが、もう少しクラスを少なくする場合は、特色ある学科を開設する。例えば、看護科等の学科で、卒業後資格を取れる学校とする。
　農業高校、水産高校の人数が少なければ、農業学科・水産学科の単科校にするのか、それぞれの地区に点在した学科を１キャンパスとして、仮称「青森総合学科高等学校」とする。学科ごとに制服は別にするが、校歌だけ新たに作る。

６　普通科等、職業教育に関する専門学科、総合学科の募集割合について

○　普通科の割合を少し増やしても良いと思う。ただ、地域ごとに割合を考えるべきだろう。

○　現在の割合で良いと思うが、総合学科は廃止して普通科に統合すべきではないかと思う。今の総合学科は、進学するにせよ、就職するにせよ、中途半端である。つまり、総合学科への進学希望者分を普通科に加える。

7　その他

○　青森県立高等学校将来構想のビジョンを大前提に推し進めなければなりません。

活力ある教育活動、グローバル化に対応した人財育成をするために、オール青森として取り組むビジョン、方針を常に意識的に取り入れて進めなければならない。

統廃合する学校の関係者、地域の皆様には、大義をもって対応、説明を推し進めなければならないと思う。